

令和6年度 江戸川区立船堀幼稚園 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	心も体も健康な船堀の子どもを育てるために次の目標を設定する。・元気な子ども（健康な心と体を育てる）・明るい子ども（自発性や主体性を育てる）・考える子ども（思考力や創造力を育てる）・思いやりのある子ども（社会性や豊かな心を育てる）			目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○足育・心育・遊育・食育・共育を目指す幼稚園 ○心も体も健康な子ども ○質の高い幼児教育を実践し、自ら学び続け、教員力を高める努力をする教師			
前年度までの本校の現状	成果	○多様な幼児の実態に合わせた環境や教材の工夫、運動遊びを実施でき、幼児の意欲的な活動につながった。			課題	・幼児の思考力を育て、遊びの質の向上を目指す。 ・教育活動への理解促進のため、さらに発信する。		

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○思考力を育む遊びの工夫	教材開発や研究を進め、発達や時期に応じた環境構成の工夫の実施	幼児の実態に合わせた指導の工夫や指導計画の見直しをする	B	B	B	実態に合わせた教材の工夫や援助を行うことで、幼児の遊びの充実や意欲を育てることにつながった。			B	○遊びや活動に主体的に取り組むことで自分の力を発揮し、自己肯定感を育むことができた。 ●指導計画の見直しが不足した。	B	幼稚園で入り、たくさんできること、自分で考えることが増えとても嬉しい。	幼児が主体的に遊びに取り組む環境構成や教材研究のさらなる工夫と指導計画の改善に取り組む。
	○絵本に親しむ活動の推進	日々絵本や紙芝居に触れる毎学期のお話会の実施	絵本や紙芝居、パネルシアター等の活動を毎日取り入れる	B	B	B	幼児の実態に応じた教材を選んでいる。お話会も喜んで参加している。			B	○時期や発達に応じた絵本に出会い、絵本や物語に触れる楽しさを味わえた。お話会に期待をもつ幼児が多かった。	B	絵本に親しむ中で、自分から見たり読んだりする意欲がでてきた。	絵本の教材研究、新しい絵本や紙芝居の購入をする。
体力の向上	○体を動かす遊びの充実	幼児が意欲的に体を動かすための教材の工夫や多様な運動遊びの充実	園内研修を通して学びを深め、実態に応じた指導を実践する	B	B	B	講師による研修を今後計画していく。			B	○環境構成を工夫し、意欲的に運動遊びに取り組めた。 ●新たな運動遊びの教材研究が足りなかった。	B	広い園庭で体を動かして楽しく遊ぶことができて満足している。	教材研究を進めたり外部の講師による指導を受けたりして指導力向上を図る。
	○食育の推進	給食や野菜の栽培、収穫、会食	給食指導や野菜の会食を通して残食を減らし、食への関心を高める	B	B	B	給食や園で育てた野菜の収穫、会食を通して、いろいろな食材を食べる経験につながり、食への関心が広がった。			B	○給食や収穫した野菜の会食を通して食への関心が高まった。 ●偏食の幼児が多く、指導の難しさがある。	B	給食や園での会食の経験で、初めて見る食べ物でも少し食べてみるできるようになった。	給食や会食を通して食べる楽しさや大切さについて引き続き指導する。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○特別支援教育の推進	幼児の特性や発達に応じた保育・支援の充実	教材や表示物等の有効活用や環境を改善する	C	B	C	個々の幼児の状況に応じた対応が難しいことがある。			C	○教職員が連携し個々に合わせた援助や視覚的教材の工夫等を実践した。 ●多様化する幼児の支援の難しさがある。	B	担任だけではなく園の先生全員で園児一人一人をよく見て見守っていることを感じる。	個々の実態に応じた教材の提示など職員で情報共有し指導力向上につなげる。
	○介助員や専門家チーム、療育機関との連携	幼児の実態に合わせた介助員との連携 専門家チーム、療育機関との内容の共有	教員と介助員の間で毎日情報共有を行い指導力を向上させる	B	B	B	専門家チーム、療育機関との連携を通して幼児の特性を理解し園全体での支援を要する幼児への指導力向上につながった。			C	○専門家チームや療育機関のアドバイスを受けた支援を実践にいかせた。 ●療育機関と指導内容の共有や共通確認の難しさがある。	B	特になし	療育機関との情報共有や指導内容の連携を図る。
不登校・いじめ対応	○教育相談の充実	降園時や面談などの個別相談やSSWとの連携	保護者に寄り添った家庭支援に配慮し対応力を高める	B	B	B	SSWの存在は保護者にとっての安心につながっている。			B	○担任、管理職、SSW等が連携し保護者の相談を受け止めたり支援をしたりした。	B	特になし	SSWや療育機関、健サポ等と連携し、保護者支援を図る。
	○不登校の対策	欠席児への連絡や家庭状況を配慮した個別対応の実施	家事都合による欠席児の減少を目指す	B	B	B	家庭状況を把握し、個別対応を行っている。改善はされたが、対応の継続は必要である。			B	○欠席が多い幼児の保護者に個別に声をかけ、家庭状況を把握したり園生活の大切さを伝えることで改善された。	B	欠席の時に気にかけて連絡をくださることに感謝している。	欠席状況の把握、家庭への連絡を常に行い、欠席日数の減少を目指す。

[illegible]